

氏名 井原みずき 法科大学院等の在籍年次 2L

*このレポートは主としてこれからインターンシップに行くことを考えている人達に情報提供を行うことを目的とするものです。以下の項目について適宜行数を増やしながら書き込んでいってください。文字数及び頁数に制限はありません。

*このレポートは、記名で法学研究科のウェブサイトに掲載されます。もし氏名掲載を希望しない場合には、その旨をお知らせ下さい。

*重要情報についてはできる限り具体的に記載して下さい。また、後輩の方達に向けた率直なアドバイスをお願いいたします。

1 受入事務所と滞在期間

受入事務所：SAGA国際法律事務所

滞在期間：約1ヶ月間（8/16～9/12）

2 事務所の業務・構成・勤務条件及びインターンシップの内容等

事務所の業務：法律業務（日本企業とミャンマー企業間の契約書作成、M&A業務、紛争解決等）、会社設立業務、商標登録業務、通訳・翻訳業務、調査業務

事務所の構成：日本人弁護士2名、リーガルコンサルタント1名、行政書士1名、ミャンマー人弁護士2名、ミャンマー人メンバー（コンサルタント、翻訳者、マーケティング等）8名、運転手1名

勤務時間：8:00～16:30、土日祝休み

インターンシップの内容：2018年ミャンマー会社法規則・通達の翻訳、事務所のFacebook掲載用広告作成、訴訟資料のファイリング、事務所内プレゼンテーション（ミャンマーの労働者の人権について）、顧問先企業から依頼された調査、YouTube掲載用のミャンマー法の紹介動画撮影、著作権法セミナーへの参加等

3 宿舍及びその他の生活環境について

ヤンゴン滞在中は、自費でHotel G Yangonというホテルで生活していました。ランクが高めのホテルだったので、生活は基本的にはかなり快適でしたが、シャワーのお湯が途中で水

に切り替わる等の不便はありました。

衛生面には不安があったので、飲料水は必ずペットボトルで売っているものを買うとか、屋台のご飯は食べないとか、特に食中毒に気をつけていました。

雨季でしたが、今年の日本の夏が猛暑だったこともあって、暑さはそれほど気になりませんでした。

4 出発に向けた準備等について

ミャンマーの法事情について少し下調べをしておく、インターンシップが始まってから業務にスムーズに入りやすいかと思います（もっとも、実際に触れてみないと分からないことが多いので、イメージするのは難しいと思いますが）。

5 インターンシップに要した費用

- ・宿泊費（朝食付き） 20万円程度
- ・生活費（飲食代、交通費等） 10万円程度

6 これからインターンに行く人達へのアドバイス等

【インターンシップについて】

事務所内では日本人の弁護士の先生とお話するとき以外は全て英語で会話することになるので、その覚悟はしておくべきかと思います。ただ、英会話を事前に練習していくというのも難しいですし、こちらが一生懸命意思を伝えようという姿勢が伝われば、事務所の方々はみなさん優しく、こちらの意思を汲み取ってくれる努力をしてくださるので、多少不安がある人でもそこまで気負う必要はないかと思います。

事務所のボスの堤先生をはじめとして、森谷先生、ミャンマー人弁護士の先生方も皆さんインターン生のことを本当によく気にかけてくださるので、裁判を傍聴してみたいとか、こんな案件の資料を見てみたいとか、希望を伝えたらそれに答えようとしてくださいます。だから、自分がやってみたいことをある程度考えた上で臨むと、より充実したインターンシップにできると思います。

【生活面について】

不安な方は、A型肝炎、腸チフス、狂犬病、デング熱等の予防接種をしていくといいと思います（私は一個もしませんでした）。ヤンゴンの中心部でも特に夜になると野犬が多く（しかも大きい）、怖い思いをしたので、対策としては夜は一人では出歩かず、できるだけ食べ物を持って歩かない方が良くと思います。

コインランドリーのようなものがないので、基本的には洗濯は手洗いになります。シャンプー・ドライヤー等はホテルの備品でありますし、洗剤等がなくなっても、事務所近くのスーパーなどで意外と何でも買えます。

自分自身エスニック料理は割と好きな方なのですが、ミャンマー料理はあまり舌に合いませんでした。しかし、お金を多めに払えば美味しいものが食べられる店がありますし、日本食レストランがかなり多くあったことは良かったです。前述の通り、食中毒等には気をつけた方が良いかと思います。

7 インターンシップの有用性等に関する評価及び感想

元々海外で働くことに興味があったので、日本人弁護士と外国人弁護士が協力して業務を行う様子を実際に目で見て肌で感じる事ができて、本当に良い経験になりました。堤先生は私たちインターン生にも業務をたくさん出してくださるので、日本の事務所インターンシップでは経験できないようなことをする機会をいただけて、ありがたかったです。

とにかく毎日忙殺されていて、ホテルの部屋に帰ってベッドで気を失って気づいたら朝、という日も珍しくありませんでした。1ヶ月だから頑張ろうと思いましたが、業務の量と求められる質の高さに追い込まれて、何度も心が折れそうになりました。しかしながら、事務所の先生やミャンマー人メンバーの皆さんがとても優しいので、励まされ、助けてもらいながら何とか1ヶ月間を終えることができました。そして一緒に参加した3人の同級生と先輩の協力がなければ、業務を終えることはできなかったと思います。本当に大変な1ヶ月でしたが、確実に参加して良かったと言えます。